

問1 次の計算をした結果として正しいものを、それぞれあとの1～4の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

(ア) $(-6) + (-10)$

1. -16

2. -4

3. 4

4. 16

(イ) $-\frac{3}{8} + \frac{5}{7}$

1. $-\frac{61}{56}$

2. $-\frac{19}{56}$

3. $\frac{19}{56}$

4. $\frac{61}{56}$

(ウ) $36ab^2 \div (-6ab)$

1. $-6a$

2. $-6ab$

3. $-3b$

4. $-6b$

(エ) $2(5x - 3y) - 3(4x - y)$

1. $-2x - 9y$

2. $-2x - 3y$

3. $2x - 9y$

4. $2x - 3y$

(オ) $\frac{3a - b}{4} - \frac{2a + 3b}{3}$

1. $\frac{-a - 15b}{12}$

2. $\frac{a - 15b}{12}$

3. $\frac{-a + 9b}{12}$

4. $\frac{a + 9b}{12}$

問2 次の問い合わせに対する答えとして正しいものを、それぞれあととの1～4の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

(ア) a km の道のりを時速 5 km で歩き、さらに 4 km の道のりを時速 b km で歩いたときにかかった時間の合計は、 c 時間以下であった。このときの数量の関係を不等式で表しなさい。

1. $\frac{a}{5} + \frac{b}{4} \leq c$ 2. $\frac{5}{a} + \frac{b}{4} \leq c$ 3. $\frac{a}{5} + \frac{4}{b} \leq c$ 4. $\frac{5}{a} + \frac{4}{b} \leq c$

(イ) 次の連立方程式を解きなさい。

$$\begin{cases} 5x + 3y = 9 \\ 7x + 8y = 5 \end{cases}$$

1. $x = -3, y = -2$ 2. $x = 3, y = -2$ 3. $x = -3, y = 2$ 4. $x = 3, y = 2$

(ウ) $x = \frac{1}{2}, y = -2$ のとき、 $2xy - y^2$ の値を求めなさい。

1. -6 2. -2 3. 2 4. 6

(エ) 1つの内角の大きさが 160° である正多角形の内角の和を求めなさい。

1. 2340° 2. 2520° 3. 2700° 4. 2880°

(オ) 関数 $y = 2x - 3$ について、 x の増加量が 3 のとき、 y の増加量を求めなさい。

1. 2 2. 3 3. 6 4. 9

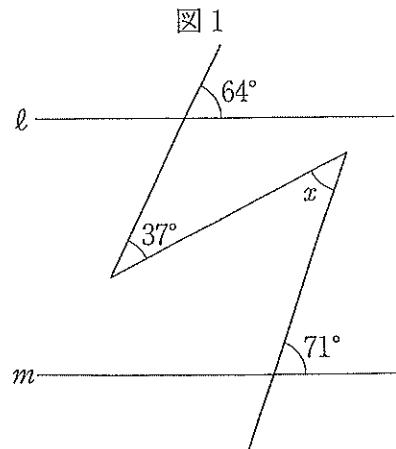
(カ) 右の表は、あるクラスで行われた垂直とびの記録を度数分布表にまとめたものであるが、まだ一部記入がされていないところがある。40 cm 以上 45 cm 未満の階級の相対度数が 0.2 であるとき、45 cm 以上 50 cm 未満の階級の相対度数を求めなさい。

1. 0.15 2. 0.2
3. 0.25 4. 0.3

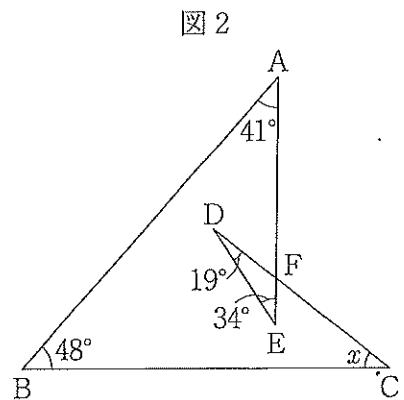
階級(cm)	度数(人)
以上 未満	
30 ~ 35	3
35 ~ 40	7
40 ~ 45	8
45 ~ 50	
50 ~ 55	8
55 ~ 60	2
計	

問3 次の問いに答えなさい。

(ア) 右の図1で、 $l \parallel m$ のとき、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。



(イ) 右の図2で、 $\angle x$ の大きさを求めなさい。



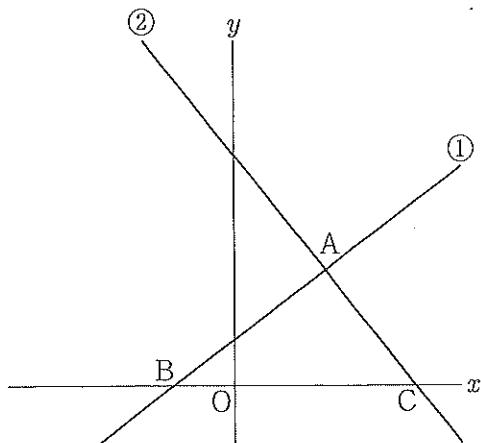
(ウ) ある店で、ケーキを6個とアイスクリームを5個買ったところ、ケーキが定価の2割引きで、アイスクリームが定価の3割引きで売られていたため、それぞれを定価で買うときよりも合計で990円安く買うことができた。ケーキ1個の定価がアイスクリーム1個の定価より150円高いとき、ケーキ1個とアイスクリーム1個の定価をそれぞれ求めなさい。

問4 右の図において、直線①は $y = \frac{3}{4}x + 2$ のグラフであり、
直線②は $y = ax + 10$ のグラフである。

点Aは直線①と直線②との交点であり、その x 座標は4
である。

また、点Bは直線①と x 軸との交点であり、点Cは直
線②と x 軸との交点である。

原点をOとするとき、次の問いに答えなさい。



(ア) 直線②の式 $y = ax + 10$ の a の値として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

1. $a = -2$

2. $a = -\frac{4}{3}$

3. $a = -\frac{5}{4}$

4. $a = -1$

5. $a = -\frac{2}{3}$

6. $a = -\frac{1}{2}$

(イ) 点Bの x 座標として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

1. -3

2. $-\frac{8}{3}$

3. $-\frac{5}{2}$

4. -2

5. $-\frac{4}{3}$

6. -1

(ウ) 原点O通り、三角形ABCの面積を2等分する直線の式を求めなさい。

問5 右の図1のように、正三角形ABCがあり、3点D, E, Fはそれぞれ辺AB, BC, CAの中点である。

2点P, Qが点Aにある状態で、大、小2つのさいころを同時に1回投げ、大きいさいころの出た目の数をa、小さいさいころの出た目の数をbとし、出た目の数によって、次の【ルール①】、【ルール②】にしたがって2点P, Qを移動させる。

【ルール①】 点Pをaの数だけ反時計回りに三角形ABCの周上を、

$A \rightarrow D \rightarrow B \rightarrow E \rightarrow C \rightarrow F \rightarrow A$ の順に移動させる。

【ルール②】 点Qをbの数だけ時計回りに三角形ABCの周上を、 $A \rightarrow F \rightarrow C \rightarrow E \rightarrow B \rightarrow D \rightarrow A$ の順に移動させる。

例

大きいさいころの出た目の数が3、小さいさいころの出た目の数が5のとき、 $a = 3$ だから、【ルール①】により、点Pは $A \rightarrow D \rightarrow B \rightarrow E$ と移動させてEでとまり、 $b = 5$ だから、【ルール②】により、点Qは $A \rightarrow F \rightarrow C \rightarrow E \rightarrow B \rightarrow D$ と移動させてDでとまる。

この結果、図2のように点Pは点E、点Qは点Dの位置にある。

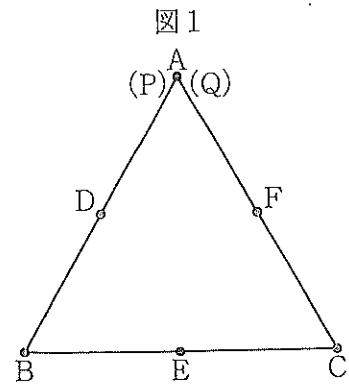
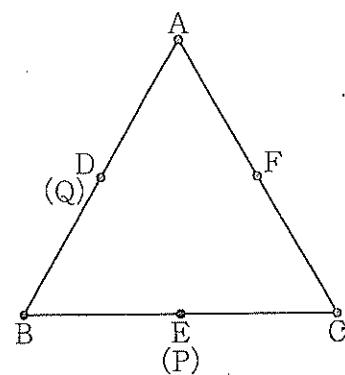


図2



いま、図1の状態で、大、小2つのさいころを同時に1回投げるとき、次の問い合わせに答えなさい。ただし、大、小2つのさいころはともに、1から6までのどの目が出ることも同様に確からしいものとする。

(ア) 三角形APQが直角三角形となる確率として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

1. $\frac{1}{9}$ 2. $\frac{5}{36}$ 3. $\frac{1}{6}$ 4. $\frac{7}{36}$ 5. $\frac{2}{9}$ 6. $\frac{1}{4}$

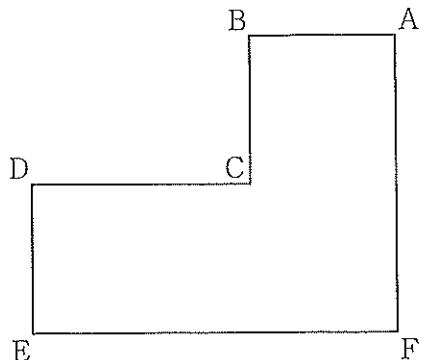
(イ) 三角形EPQが正三角形となる確率を求めなさい。

問6 右の図1は、 $AB = 2\text{ cm}$, $BC = 2\text{ cm}$, $CD = 3\text{ cm}$, $DE = 2\text{ cm}$

で、長方形と正方形をあわせた図形である。

このとき、次の問いに答えなさい。ただし、円周率は π とする。

図1

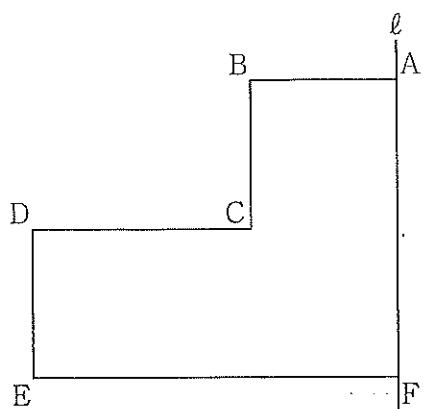


(ア) 右の図2は、図1において辺AFを通る直線を ℓ としたものである。この図形を ℓ を軸として1回転させたときにできる立体について、次の問いに答えなさい。

(i) この立体の体積として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|-------------------------|--------------------------|
| 1. $28\pi \text{ cm}^3$ | 2. $48\pi \text{ cm}^3$ |
| 3. $58\pi \text{ cm}^3$ | 4. $72\pi \text{ cm}^3$ |
| 5. $84\pi \text{ cm}^3$ | 6. $102\pi \text{ cm}^3$ |

図2



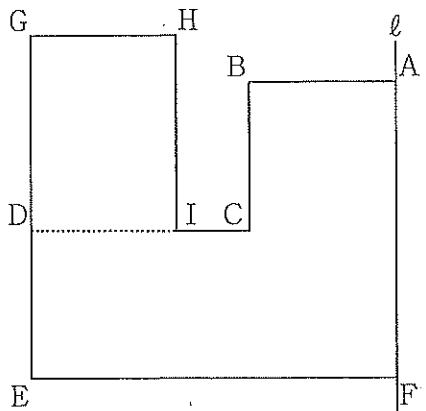
(ii) この立体の表面積として正しいものを次の1～6の中から1つ選び、その番号を答えなさい。

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. $42\pi \text{ cm}^2$ | 2. $57\pi \text{ cm}^2$ |
| 3. $66\pi \text{ cm}^2$ | 4. $78\pi \text{ cm}^2$ |
| 5. $90\pi \text{ cm}^2$ | 6. $98\pi \text{ cm}^2$ |

(イ) 右の図3は、図2において辺DC上に長方形GDIHを3点G, D, Eが一直線上にあるようにつけた図形で、 $DI = 2\text{ cm}$ である。

この図形を ℓ を軸として1回転させたときにできる立体の表面積が $120\pi \text{ cm}^2$ となるとき、線分GDの長さを求めなさい。

図3



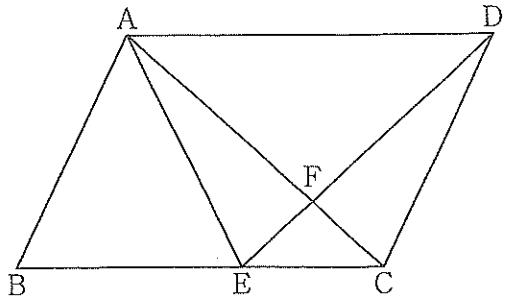
問7 右の図のように、平行四辺形ABCDがあり、辺BC上

に $AB = AE$ となる点 E をとる。

また、線分 AC と線分 DE との交点を F とする。

このとき、次の問い合わせに答えなさい。

(ア) 三角形 ABC と三角形 EAD が合同であることを次のように証明した。□(i) □(ii) に最も適するものをあとの 1 ~ 6 の中からそれぞれ 1 つ選び、その番号を答えなさい。



(證明)

$\triangle ABC$ と $\triangle EAD$ において、

まず、 $AB = AE$ から、

平行四辺形の向かいあう辺の長さは等しいから、

また、 $\triangle ABE$ は二等辺三角形なので、底角が等しいから、

次に (i) から、

$$\textcircled{3} \quad \textcircled{4} \text{ 由 } \angle ABE \equiv \angle EAD$$

よって $\angle ABC \equiv \angle EAD$

① ② ⑤より $\boxed{\text{ (ii) }}$ がそれぞれ等しいから、

$$\triangle ABC \cong \triangle EAD$$

1. 対頂角は等しい
 2. 平行線の錯角は等しい
 3. 平行線の同位角は等しい
 4. 3組の辺
 5. 2組の辺とその間の角
 6. 1組の辺とその両端の角

(イ) $\angle ABE = 64^\circ$, $\angle ACD = 74^\circ$ のとき, $\angle EAC$ の大きさを求めなさい。

(ウ) $BE : EC = 3 : 2$, $AF : FC = 5 : 2$ で, 平行四辺形 ABCD の面積が 70 cm^2 のとき, 三角形 EFC の面積を求めなさい。

(問題は、これで終わりです。)